

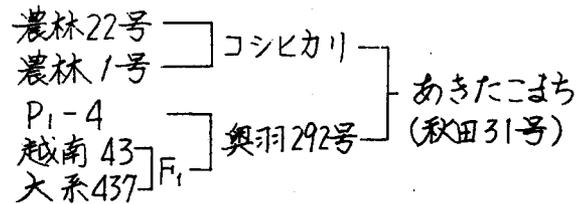
水 稻 (うるち) 「あきたこまち」 (準奨励品種)

(農試 技術部 環境部 果南分場)

1 来歴

「あきたこまち」は、昭和50年福井農業試験場において「コシヒカリ」を母「奥羽292号」を父として交配を行い、昭和52年に秋田農試が種子を譲り受けて選抜固定を図った系統である。昭和59年秋田県の奨励品種として採用され「あきたこまち」と命名された。本県においては、昭和57年から「秋田31号」の系統名で本場並びに果南分場の奨励品種予備調査に供試し、昭和58年から本調査と現地調査(9か所)に供試して収量並びに特性を検討した結果有望と認められた。

系 譜



2 特性の概要

1) 形態的特性

- (1) 「あきたこまち」の発芽性はやや劣るが、通常の発芽条件(30℃~32℃)では問題は無い。苗の草丈は「ササミノリ」並の短苗で葉色は濃く葉身のたれが少ない。
- (2) 最高分けつ期の生育量は「ササミノリ」より少ない。葉色は濃く株が開張し、葉身のたれが少なく、直立型の草姿となるが、出穂後は止葉がやや開く。
- (3) 稈長は「ササミノリ」に比較して4~5cm短い。中稈偏穂数型品種である。
- (4) 穂相は「ササミノリ」に比較して2次枝梗着生初が多く、「ササミノリ」よりやや密粒で1穂粒数が多い。穂揃いはやや劣るが、熟色は良好である。

2) 生態的特性

- (1) 出穂は「ササミノリ」に比較して1~2日早い。成熟期は2日~4日早い中生の早に入る。
- (2) 稈の太さは「ササミノリ」並で稈質はやや不十分であるが、倒伏抵抗性は「ササミノリ」よりまさる。
- (3) いもち耐病性は、真性抵抗性遺伝子Pi-a、Pi-iをもつものと推定される。圃場抵抗性は葉いもち、穂いもちとも「アキヒカリ、キヨニシキ」にまさる耐病性をもっている。
- (4) 耐冷性は、活着期の低温抵抗性は「アキヒカリ」並であるが、若手農試の人工気象室による検定結果では「アキヒカリ、ササミノリ、たかねみのり」にまさる。障害型耐冷性は「アキユタカ」並である。
- (5) 収量性は「ササミノリ」並で「アキヒカリ」のような多収性はもっていない。

3) 品質並びに食味

- (1) 玄米は中円で「ササミノリ」より小粒で粒厚もうすめである。色沢、光沢が良く品質は良好である。搗精歩留も「ササミノリ」より高く、また胚芽の残存も少ない。
- (2) 食味は若手農試本場、果南分場の試験の結果、「ササミノリ、アキヒカリ」及び「トヨニシキ、コガネヒカリ」よりは明らかにまさり、「ササニシキ」並の食味をもっている。

3. 岩手県で奨励品種に編入する理由

「あきたこまち」は「ササニシキ」並の食味をもつ中生品種で、耐冷性、いもち耐病性は「ササミノリ」より安定している。また「アキユタカ」に比べても良食味であることから「ササミノリ」と「アキユタカ」の栽培地域に導入し、良食味品種の適応地域を拡大し、良質米生産果としての地位を確保するため、昭和62年度より準奨励品種に編入する。

4. 主な適応地帯及び普及見込面積

北上川上流地帯、北上川中流地帯（北上市以北）、遠野地帯の標高200m以下の平坦部。普及見込面積6,000ha。

5. 栽培上の留意点

- (1) 「あきたこまち」は低温での発芽が劣るため、浸種、催芽を十分行って加温出芽を励行し出芽の安定をはかる。
- (2) 北上川上流（盛岡以北）地帯、遠野地帯、北上川中流地帯の山間部では、熟期が「アキユタカ」より遅く、中生の早に入るので中苗、成苗等葉数増加苗を用いて出穂の促進をはかる。
- (3) 耐倒伏性は「ササミノリ」よりまさるが、稈は強くないので（アキヒカリ、コガネヒカリのような耐倒伏性はない）無理な多肥栽培はさける。稈長80cm以上では倒伏の危険性が高い。
- (4) 「あきたこまち」の基肥窒素量は「ササミノリ」並とし、追肥は幼穂形成期が適当と考えられる。幼穂形成期の葉色は他品種より濃い。稲体窒素濃度は同程度と推察される。
- (5) 粒数の確保は穂数に依存する面が大きく、健苗育成、初期水管理に注意して下位分けつの発生を促し、穂数確保に努める。600kg/10a以上の収量を確保するためには、穂数500本/㎡前後、㎡当たり粒数35.0~38.0千粒、登熟歩合80%以上が必要である。
- (6) いもち耐病性は穂いもち、葉いもち病とも「アキヒカリ、キヨニシキ」にまさる耐病性をもっているが、発病には注意し、防除基準に従って適期防除に努める。また、紋枯病の防除にも留意する。
- (7) 「あきたこまち」の刈り取り適期は、積算温度で見ると950℃~1,100℃の範囲であり、刈り取り遅れによる品質低下に注意する。

6. 試験成績

表-1 生育、収量調査

施肥条件	場所	項目 品種名	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	倒伏	成熟時			玄米量 (kg/a)	玄米量 比率 (%)	品質
						科長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)			
標準 条件	本場	あきたこまち	8.15	10.3	0.4	78.5	16.9	517	68.9	99	中~上下
		(比)ササミノリ	.16	.7	0.5	82.5	17.7	535	70.0	100	"
		(比)アキヒカリ	.14	.3	0.1	80.0	18.7	480	71.9	103	"
基肥 条件	本場	あきたこまち	8.7	9.23	1.7	79.5	17.8	483	60.7	99	中~上下
		(比)ササミノリ	.8	.25	2.6	85.0	18.4	491	61.5	100	中~中上
		(比)アキヒカリ	.5	.16	0.8	79.0	19.3	418	60.0	98	"
多肥 条件	本場	あきたこまち	8.15	10.4	1.1	82.0	17.4	566	71.8	102	中~上下
		(比)ササミノリ	.16		1.2	87.0	18.5	580	70.8	100	"
		(比)アキヒカリ	.13	10.3	0.9	86.0	18.8	498	73.5	104	"
基肥 条件	本場	あきたこまち	8.8	9.25	2.9	84.0	18.0	497	61.7	99	中~上下
		(比)ササミノリ	.8	.27	3.4	89.0	18.4	522	62.6	100	中~上下
		(比)アキヒカリ	.5	.19	2.1	83.0	19.4	443	62.1	99	中~中上

表-2 食味官能試験 (岩手県試)

品種名	総合	外観	香り	味	粘り	硬さ
あきたこまち	(F1.042)	+0.500	+0.042	(F1.000)	+0.625	-0.083
ササミノリ	+0.458	+0.375	+0.333	+0.458	-0.083	+0.417
ササニシキ	+0.500	+0.167	(S0.542)	+0.167	+0.125	(S0.583)

* 昭和61年12月11日調査、パネル人数24名

表-3 テクスターロメーターによる食味特性

品種名	硬さ(H)	粘り(H)	H/H	備考
あきたこまち	81.80	0.72	113.6	食味食好
(比)ササミノリ	75.50	0.51	148.0	H~少
(比)アキユタカ	92.90	0.38	244.5	H~大
(比)アキヒカリ	93.10	0.40	232.8	H/H~小